



今日から始めよう！SDGsアクション

持続可能な社会をつくるためには、
一人ひとりの行動を変えていくことが大切です。
あなたの一歩が世界を変えていきます。
今日、できることから始めてみましょう。



SDGsアクションのヒント

エシカル*消費

人や社会、地球環境、地域に配慮したモノやサービスを“選んで”消費することをいいます。日常の買い物などの消費に“エシカルな目線”を加えましょう。
※エシカル(ethical)＝「倫理的な」という意味の英語

食品ロス*削減

食べ物は、作る時にも捨てる時にもエネルギーを消費し、地球温暖化の最大の原因とされる二酸化炭素を排出します。大切な食べ物を無駄のないように消費しましょう。
※まだ食べられるのに廃棄される食品。日本では年間600万トンの食品ロスが発生。これは国民一人あたりに換算すると、毎日お茶碗一杯分に相当。世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた食糧援助量(平成29年度で年間約380万トンを)をはるかに上回る。

地球温暖化防止*

二酸化炭素などの温室効果ガスの排出を減らすため、資源の無駄遣いをやめましょう。
※大気中にある二酸化炭素などの温室効果ガスが増えすぎると、気温が上昇したり、地球全体の気候が大きく変化する。既に世界各地で自然環境や人々の暮らしに重大な影響をもたらしており、温暖化対策を十分に行わない場合、さらに深刻になると指摘されている。

SDGsは未来との約束

滋賀 X SDGs

9 環境保護に配慮した技術や製品開発に貢献

- グリーン購入*
※製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入すること
- 使い捨てるものより、長く使えるものを選ぶ
例：マイ〇〇(バッグ、ボトル、カップ、箸など)

10 途上国の格差解消や公正な社会づくりに貢献

- 適正で公正な値段のもの(フェアトレード*商品)を買う
※製品などを適正な価格で継続的に取引することで、立場の弱い発展途上国、生産者、労働者の生活や自立を目指すこと
- 寄付付きの商品を買う
例：レストランでの寄付付きのメニュー、寄付付きの文具商品

15 地元農家を応援して自然環境保全に貢献

- 地産地消
新鮮な食材が手に入る、食材を運搬する距離が減り二酸化炭素の排出が減る、地域の生産者の収入につながるなどのメリットがある
- 地元で買い物をする
地域のお店や商店街などで買物することで、地域の活性化につながる

12 食品ロス半減目標に貢献

- 食べられる量を買う・注文する
例：注文の際、苦手なものが入っていないか、量が多すぎないか確認する。少量メニューを頼む
- 食べ残しをしない
例：冷凍保存/別の料理にリメイク/3010運動

13 二酸化炭素の発生を抑えて地球温暖化防止に貢献

- 調理の際は食べられる部分を捨てない
例：野菜の皮などを利用できるレシピを活用する
- 食品の賞味(消費)期限に注意する
例：家庭の冷蔵庫の中をこまめにチェックする/買物の際、すぐに食べるものは賞味(消費)期限の短いものを買う
- 省エネルギー・省資源
例：使わない電気を消す/冷暖房の設定温度を弱め、衣服などで調節する/水を出しっぱなしにしない/公共交通機関を利用する/3R(リデュース、リユース、リサイクル)

SDGs (Sustainable Development Goals)とは 私たちは、地球を救うことができる最後の世代となるかもしれないと言われています。 私たちの生活は、人物・サービスなどあらゆる面で世界とつながり、便利で豊かになりました。しかし、この便利な生活が、世界各地で貧困、食料・エネルギー不足、気候変動などの問題を惹き起こしています。加えて、将来の世代に残すべき資源も先食いしてしまっています。 SDGsは2030年までに、すべての人が将来にわたって、平和で豊かな生活を送れるように、世界を経済、社会、環境のバランスのとれた社会へと変革することを目指す17の目標で、「誰一人取り残さない」をキーワードに、すべての人々が幸せになることを求めています。発展途上国だけでなく先進国も含む世界全体の共通目標として、2015年国連サミットにおいて全会一致で採択されました。

※「持続可能な開発」とは「環境と開発に関する世界委員会が1987年に公表した報告書『Our Common Future』の中心的な考え方として取り上げた概念で、「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」のことを言う。この概念は、環境と開発を互いに反するものではなく共存し得るものとしてとらえ、環境保全を考慮した節度ある開発が重要であるという考えに立つものである。(外務省ホームページより抜粋)



持続可能な開発目標とは



滋賀県は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

滋賀県のホームページやSNSでもSDGsに関する取組を紹介しています

滋賀県 総合企画部 企画調整課
電話/077-528-3312
e-mail/kikaku02@pref.shiga.lg.jp

滋賀県ホームページ
SDGsの普及および実践に係る滋賀の取組
滋賀県 SDGs

Facebook
滋賀県企画調整課 サステナブル滋賀 xSDGs

Twitter
滋賀県・サステナブル滋賀 xSDGs

もっとよく知りたい方は
国際連合広報センターホームページ(日本語)
<https://www.unic.or.jp/>

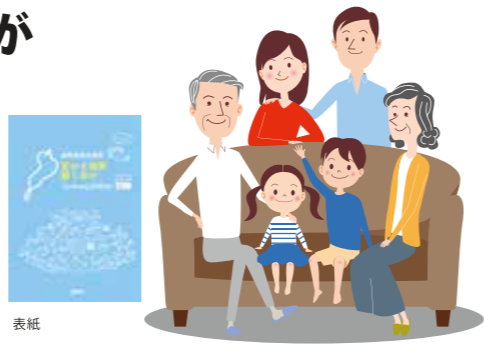
SDGsの特徴を活かした滋賀県基本構想がスタートしました！

SDGsの特徴を活かした新しい滋賀県基本構想は、県民みんなの目指す2030年の姿を描いた将来ビジョンであり、2019年4月にスタートしました。「変わる滋賀 続く幸せ」を基本理念に、長寿社会の到来、飛躍的な技術革新、世界的な脱炭素化社会の進展など、非常に大きな変化に直面している中で、私たちがしなやかに変わり続け、行動することにより、自分らしい未来を描ける生き方と、その土台となる

経済、社会、環境のバランスの取れた持続可能な滋賀の実現を目指します。



滋賀県基本構想審議会



表紙

詳しくは、
滋賀県 基本構想



滋賀県がSDGs未来都市に選定されました！

滋賀県は2019年7月、SDGsの達成に向け優れた取組を進める「SDGs未来都市」に選定され、「世界から選ばれる『三方よし・未来よし』の滋賀の実現」をテーマとした「滋賀県SDGs未来都市計画」を策定しました。
琵琶湖をはじめとする豊かな自然や、歴史・文化、活力ある農山村、共生社会など、滋賀が

育んできた地域資源の価値を正しく知り、その価値を損なわない形で、滋賀の持続的な発展に活かすことができる担い手づくりを推進することで、経済、社会、環境の三側面のバランスを取り、地域を活性化させ、最適な形の「未来よし」につなげる取組を推進します。



詳しくは、
滋賀県 未来都市



2030年の滋賀と私を考える会議を開催しました！

2019年4月にスタートした基本構想が目指す2030年の姿の実現に向け、一人ひとりが何をすべきかについて、県民の皆さんと一緒に考える「2030年の滋賀と私を考える会議」を2019年9月から11月まで、県内6カ所で開催しました。
高校生から70代の幅広い年代の延べ128名の方々に参加をいただき、グループディスカッションなどで参加者同士の交流を深めるとともに、「私の行動宣言」を発表しました。



滋賀×SDGs交流会に参加してみませんか！

持続可能な社会の実現に向け、社会のあり方を変革していくためには、パートナーシップが重要です。そこで、企業、団体、学生、市民活動、行政など県民の皆さんを対象にSDGsの啓発および交流を行う場として、2018年11月から「滋賀×SDGs交流会」を開催しています。皆さまの参加をお待ちしています。



滋賀でSDGsアクションが広がっています



フードバンク

包装の印字ミス等により販売が困難になった食品、規格外の農産物、家庭で余った食品などの寄付を受け、食糧支援を必要とする家庭や福祉施設などに無償で提供する活動をしています。



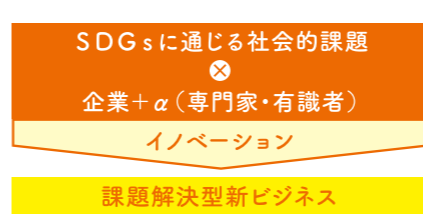
琵琶湖と共生してきた農林水産業「日本農業遺産」認定！
さらに「世界農業遺産」の候補に！

伝統的な琵琶湖漁業、環境こだわり農業、魚のゆりかご水田などを「琵琶湖システム」として、国連食糧農業機関(FAO)に申請中。人と自然にやさしい持続可能な農林水産業の活性化と次世代継承を目指しています。



しがハブ

(滋賀SDGs×イノベーションハブ)
産金官が連携し、社会的課題解決につながるイノベーションを創出するとともに、新たなビジネスモデルの発掘・構築を目指します。



滋賀県立大学

SDGs達成に取り組む人材の育成や持続可能な地域づくりの支援のほか、滋賀県内外の関係者が集う「キャンパスSDGsびわ湖大会」の開催等を通じて、SDGs地域化拠点となることを目指しています。



第2回キャンパスSDGsびわ湖大会 @滋賀県立大学 2019年11月16日



琵琶湖の水草を有機特殊肥料に再生

湖面を覆い、景観悪化や悪臭などの問題が深刻化している琵琶湖の水草を、有用微生物入り有機特殊肥料として製品化し社会循環させるとともに、売上代金の一部を琵琶湖の環境保全に役立てています。



湖の恵 (Benir du lac) 提供: 関明豊建設



立命館大学

Sustainable Week 実行委員会
SDGsの啓発および達成に向けた実践の創出のため、びわこ・くさつキャンパスとその周辺でSustainable Weekなどユニークな企画を開催しています。



提供: 立命館大学Sustainable Week 実行委員会



大津を元気に！
次世代につなぐ、活性化への新たなチャレンジです！

ここ滋賀SHIGAで県内の名品を販売、おにぎり食堂で美味いおにぎりたてのおにぎりを提供。地域の皆さんに喜んでいただけることを第一に、自動車販売会社が発達させた新たなトライアルが街に明るさと元気をお届け！



野洲のおっさんおにぎり食堂 提供: 滋賀トヨペット㈱

企業でSDGsを活用するヒント

SDGsを理解する

